



タイベック®製  
遮光・遮熱ネット

# 「タキイホワイトTW」を 夏まきの露地ハウレンソウ 栽培で活用！

(編集部)

タキイオリジナルの遮光・遮熱用ネット「タキイホワイトTW」は、主にハウスの外張り・内張り・サイド張りで作物の発芽、育苗などにご愛用いただいておりますが、今回夏まきの露地ハウレンソウ栽培でトンネル被覆として利用することで、高温障害や立枯病の発生などを少なく抑えたハウレンソウを収穫できました。今回はその試験内容を紹介します。

## 「タキイホワイトTW」の特長

「タキイホワイトTW」は通常の遮光・遮熱資材に比べて、乱反射、拡散光に優れます。光はやさしく透すため、暗くて作物が軟弱徒長する心配がありません。遮熱効果で作物は快適に育ち、トマトでは成り疲れを防止することができます。また、ハウスでは作業する人も明るく涼しいと好評です。

この商品の主となる素材は、太陽光を90%以上乱反射するデュポンタイベックをネットに編み込んでおり、アザミウマ類の飛行を困難にさせて侵入の抑制が期待できます。遮光率によって「タキイホワイトTW65」(遮光率60〜65%)、「タキイホワイトTW45」(同40〜45%)、「タキイホワイトTW30」(同30〜35%)を揃えており、広い用途で活用できる資材となっています。

## 試験概要と 「タキイホワイトTW」 の効果

試験場所は一般平坦地の京都府久世郡久御山町で、先立って行われた8月上旬播種のハウレンソウのハウス雨よけ栽培(「タキイホワイトTW65」をトンネル被覆)の結果がよかったことを受け、引き続き8月28日播種の露地栽培(「タキイホワイトTW」をトンネル被覆)で行われました。品種は早晩性が分かるよう「オーライ」「ニューアールナR4」「おかめ」「他社M」「次郎丸」を用い、1mに1条ずつ播種。暴風雨予防に支柱を斜向いに立て、そこに「タキイホワイトTW65」「タキイホワイトTW45」「タキイホワイトTW30」をそれぞれトンネル被覆し、バックカー(シヤクトリムシ)で固定しました。対照区は無被覆です。

生育経過は、「タキイホワイトTW」を被覆した区で発芽の揃いがよく、高温・多湿で懸念される立枯病の発生率も非常に低くなりました。播種後2週間目の様子は写真1の通りです。無被覆区に比べると、「タキイホワイトTW」の区のハウレンソウは収穫まで順調な生育を見せ、株張りのよいものを

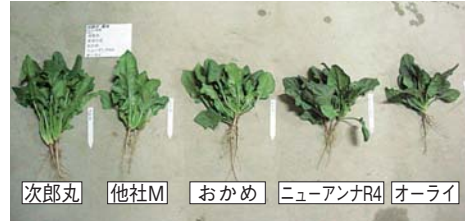
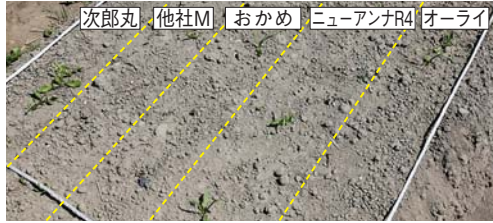


● 播種日：8月28日

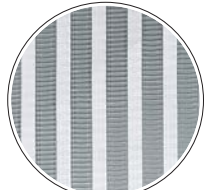
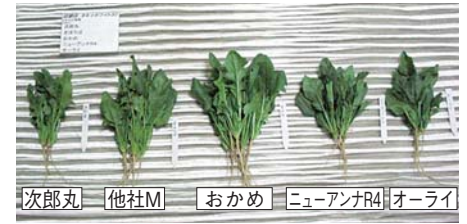
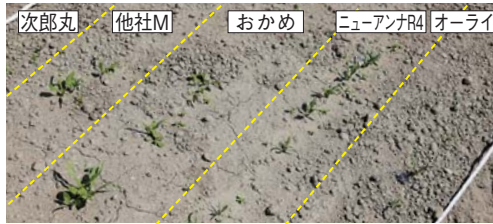
写真1

写真2

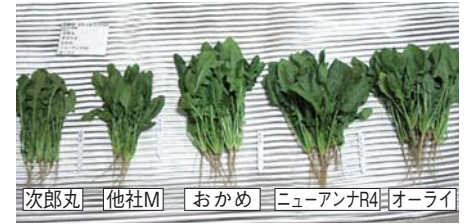
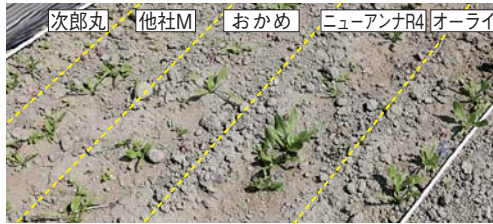
無被覆区



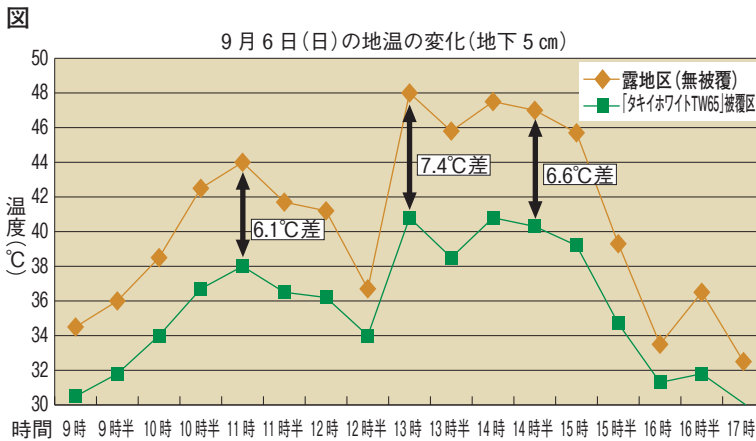
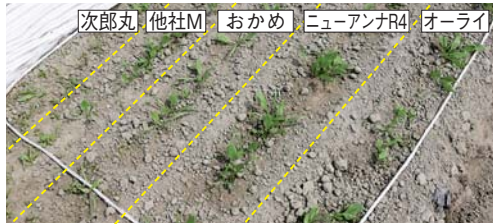
「タキイホワイトTW30」区



「タキイホワイトTW45」区



「タキイホワイトTW65」区



↑ 8月28日播種では一部「涼感ホワイト20」を使用して同様に栽培。遮光率が低いので時期によって使い分ける。

「タキイホワイトTW」は、高温期のプロッコリーヤマト、花きでの発芽、育苗にも優れた効果を発揮します。今後、さらなる温暖化の影響から考え、でも、「タキイホワイトTW」は安定生産に欠かせない資材として活用場面の広がりが期待できます。

● ● ● ● ●  
**「タキイホワイトTW」  
 を使って安定生産を!**  
 ● ● ● ● ●

つながるポイントとなります。

このように、夏場のハウレンソウ栽培で「タキイホワイトTW65」「タキイホワイトTW45」「タキイホワイトTW30」を使い分けるには、播種時期が8月上中旬であれば「タキイホワイトTW65」、今回の8月下旬では「タキイホワイト45」が効果的であったことから、暑さが和らぐにつれて遮光率の低いものを利用することが安定生産

収穫できました(写真2)。特に、この作型においては「タキイホワイトTW45」がハウレンソウの生育に効果が高く、品種は夏まき栽培全般において「ニューアンナR4」が好結果となりました。「タキイホワイトTW65」被覆区と露地区(無被覆)の地温差は図のようになります。